



青柳園だより

2025年
3月号
文京区立青柳幼稚園

大きくなるということ

園長 米澤 千秋

季節が逆戻りしたかのような厳しい寒さが続きましたが、温かい日も増えてきて、春は着実に近くに来ています。2月の初旬に「まだまだ寒いけれど、庭で春を見つけたよ！探してみね」と子どもたちに投げかけると、ペーパー芯などで作った望遠鏡を持って春探しが始まりました。「見つけた！」と指を差す先には、可愛らしい梅の花が。「チューリップの芽が伸びてる」「見て！スイセンの花が咲いてる！」など、身近な春探しを楽しみ、春の訪れを喜び、体感しています。

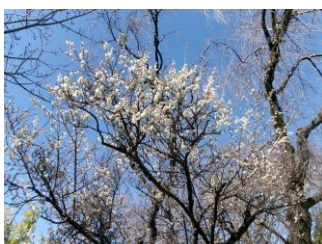


今年度も残りわずかとなり、これまで年長児が担ってきた園生活の中の役割を年少児に引き継いでいます。誕生会の司会では、グループごとに言葉や歩き方、おじぎの仕方などを練習しました。年長児は「ドンドンって音を立てないで、静かに歩くとかっこいいよ」「おじぎはしっかり頭を下げてね」「ここまで聞こえるように大きな声で言ってみて」「さっきより上手にできたね」など、これまで自分たちが教えてもらったり、認めてもらったり、様々な活動に取り組む中で学んだりしたことを一生懸命に駆使しながら、年少児に寄り添う姿が見られました。

来年度の新入園児を迎えて行った「幼稚園で遊ぼう」の会では、年少もも組の子どもたちが大活躍。保護者から離れられない子に、自分がブロックで作ったものを見せて遊びに誘ったり、相手の興味に合わせて遊んだりする姿がありました。「みんなが優しくしてくれたから小さい子どもたちがニコニコの顔になったね。大成功！」と水筒で乾杯！「名札の色が、何だか水色(年長児の名札の色)に変わってきているみたい」と伝えると、「ほんとだ！なんか色が違う。。。」と、嬉しそうにじーっと自分の名札を眺めていました。

どちらの学年もこの一年間で心も体も成長し、もうすぐ一つ上の学年になることへの期待感が高まっています。

子どもたちが“大きくなる”と聞いて、どのようなことを思い浮かべますか。絵本『大きくなるっていうことは』(中川ひろたか・文)の中には、「あんまりなかないってこと」「ちいさなひとにやさしくなれるってこと」など様々描かれています。幼稚園生活の中で“大きくなる”ということは、人との関わりの中で、嬉しい、悲しい、楽しい、悔しいなど様々な感情体験をし、新たな自分に出会い、自分の力を自分で伸ばしていくことではないかと思います。そのために、身近な大人が支え、見守ることが大切です。進級・就学に向かうこの時期に、子どもたち自身が自分の成長を実感できるように「大きくなって嬉しいね」と共感し、さらなる成長や様々なことに主体的に取り組む意欲につなげていきましょう。



「親も子も楽しい幼稚園」の実現に向けて、保護者の皆様には様々なご協力をいただきまして、ありがとうございました。感謝の気持ちでいっぱいです。

地域の皆様、本園へのご支援・ご協力をいただきまして、ありがとうございました。今後とも、お力添えをいただけますようお願いいたします。